

歯と噛み合わせの物語

—薬師さまからベートーヴェンまで—

日頃は思いもつかないものの歯や噛み合わせについて、
時に楽しく空想し、時に科学的に分析する。

歯科医師の著者ならではの視点で綴る“趣味の歯科エッセイ”

藍 稔 著

- 新書判 ●276ページ
- 定価1,680円(本体1,600円+税5%)
- ISBN978-4-89605-295-4

目次

- 第一章 仏様の噛み合わせ
- 第二章 牙のある仏たち
- 第三章 鬼の歯、大黒様の歯
- 第四章 恐竜たちの噛み合わせ
- 第五章 トリの歯
- 第六章 人の犬歯は犬歯でよかった
- 第七章 ハプスブルク家の
突き出たあごと垂れ唇
- 第八章 ゲーテとその周辺
- 第九章 舞楽面陵王のあご
- 第十章 ウィーンの音楽家の歯の物語

豊富なイラストや
写真(約160点)を掲載。
見ても読んでも楽しい1冊!



掲載内容

- 如来さまの歯の数はヒトより多い40本
- 牙のあるお不動様は噛み合わせに難あり?
- ほっぺのふくらんだ大黒様は歯ぎしりの常習者?
- ティラノサウルスの上下の歯は噛み合わない
- 攻めには強いが守りには弱いティラノサウルスの頭骨
- トリケラトプスの歯は使い捨てのデンタルバッテリー
- 口の開き方でトリが恐竜の子孫であることがわかる
- カール5世の暗い性格は突き出たあごと垂れ唇のせい?
- マリーアントワネットもあごが長かった
- あのカンペル線のカンペルはゲーテには冷たかった
- そのゲーテは詩人ハイネを冷たくあしらった
- 森鷗外の著作に出てくる「カンペルの面角」
- モーツァルトの歯はむし歯でぼろぼろ
- ベートーヴェンは木の棒を歯にくわえて音を聞いていた?